

## 大谷大学・大谷大学短期大学部 博物館学課程

### 2008年度の活動計画

2008年度の文学部・短期大学部の博物館学課程は、前年度の反省を踏まえて立案され、資格取得課程委員会博物館学課程部会で承認された授業計画に基づき、博物館実習Ⅰ担当教員を中心に実施した。

### 博物館実習Ⅰ(学内実習)

本年度の博物館実習Ⅰ(「2008年度博物館実習Ⅰ(学内実習)授業テーマと内容」参照)は、文学部第3学年を中心に、第4学年・科目等履修生および短期大学部生を含む計22名を対象にし、まずはじめに「仏教資料取扱法」(序説)と題して、「総論」から入り、本課程の歴史やねらい、展望などにふれて、受講生に目的意識の明確化を促した。また本課程の特色である「仏教文化財」の内容を概説した。そして、受講生には「仏教資料取扱法」(序説)の内容をふまえて、「仏教文化財について」「受講生にとって博物館とは」などと題するレポートの提出を求めた。このレポート作成は、これまで観覧者の立場にあった受講生を、学芸員を目指す者として動機付けすることを目的にしたものである。また本課程の特色である古文書読解力の養成強化の観点から、前年度の「古文書解読法」の復習の時間を3コマ設けた。

次いで、前期には、①「仏教遺物資料Ⅰ・Ⅱ」(仏教考古・仏教民俗)、②「古文書」(近世・近代史料)、③「写真撮影実習」等の講義・実習をそれぞれの担当者がおこなった。講義では知識の習得をめざす一方、実習では、実務として拓本、掛け軸、古文書などの取り扱いなどを習得させた。実習に際して

は、受講生22名を3班に分けておこなった。各授業ごとに、作成した調査カードやレポートを必要に応じて提出させた。

夏期休暇中、夏期フィールドを8月6日(水)・7日(木)・8日(金)の3日間で開催し、初日に「古文書調査実習」、2日目に「博物館資料撮影実習」、3日目に「博物館等施設見学」という計画を立て、実施した(詳細は「博物館実習Ⅰ(学内実習)夏期フィールド」参照)。終了後、受講生は夏期フィールド参加レポートを提出した。

後期は、④「真宗史料」、⑤「仏教文献資料Ⅰ～Ⅲ」では、真宗史料と東洋・日本の仏教を中心とした文献資料の講義と実習をおこなった。いずれも専門的知識の習得と取り扱い技術の習得に注意した。このほか、近年、博物館でその利用が注目されている情報処理技術と博物館の関係を認知させるために「博物館とマルチメディア」では、スタジオを使用して、講義と実習を実施した。また来年度受講予定の博物館実習Ⅱ(学外実習)での実習生展に向けて事前学習会の時間を設けた。

最終授業時には、一年間の授業の総括と、次年度の博物館実習Ⅱ(学外実習)にのぞむ心構えや、博物館実習Ⅰの復習など事前学習の必要性を説明した。

また本年も受講生が主体的にテーマをもって3館以上の博物館・資料館・美術館などを見学してレポートする課題を設けた。これは受講生各自の自覚を促すとともに、学芸員の「現場」での様子を認識させる意図を持ったものである。

### 博物館実習Ⅰ・Ⅱ合同見学会

例年、博物館実習Ⅰ・Ⅱの受講生を対象として、春秋二季の博物館合同見学会を実施しているが、本年度は次のとおりである。

春季合同見学会は5月11日(日)午後1時30分より大阪市立美術館の特別展「聖徳太子ゆかりの名宝」展を見学した。また秋季合同見学会は、11月23日(日)午後1時30分より大谷大学博物館の特別展「聖徳太子伝の世界一えがかれた和国の教主」展の見学と、記念講演会「聖徳太子信仰と民俗」(本学教授豊島修氏)を聴講した。それぞれ受講生は見学あるいは聴講した内容をレポートにまとめて提出した。こうした見学会の機会は、上記の夏期フィールドでの施設見学と各自でおこなう年間3館以上の見学、そして春秋二季の博物館合同見学会と、少なくとも4回設けている。

### 博物館実習Ⅱ事前ガイダンス

本年度の博物館実習Ⅱ(学外実習)の参加に先立ち、5月21日(水)午後4時10分より1号館1110教室で「博物館実習Ⅱ」受講生を対象とした「事前ガイダンス」をおこなった。概要は次のとおりである。

基調講演「これからの博物館と学芸員」

兵庫県立歴史博物館 小栗栖健治氏  
ガイダンス「近江八幡市立資料館における  
IPM 取り組みの事例」

近江八幡市立資料館 山本 順也氏  
最初に本課程の「博物館概論」を担当していただいている小栗栖先生から、表題のテーマについて、具体的な事例をふまえてさまざまな問題を指摘された。また学外実習参加を目前にした受講生にとって重要な心構えを具体的にご教示いただいた。

山本先生からは、近江八幡市立資料館における学芸員の諸活動の中から、近年取り組んでいるIPM(総合的害虫管理)について、事例を紹介しながらご報告いただいた。

講演後、両先生から質疑応答の時間を頂戴し、講演内容のほか、学外実習の細かな点にまで丁寧なお答えをいただき、有意義な事前ガイダンスであった。

終了後、受講生には学外実習のための事務説明をおこない終了した。

### 博物館実習Ⅱ(学外実習)

本年度の館務実習は、6月・7月・8月を中心にしておこなわれた。受講生は22名(内訳は、大学院1名、文学部20名、文学部科目等履修生1名)であった。実習館と実習生数は次のとおりである(「2008年度博物館実習Ⅱ」参照)。

実習終了後、受講生は各館で実習した内容と反省点をレポートにまとめて提出した。この内容は、次年度の「博物館実習Ⅰ」(学内実習)・「博物館実習Ⅱ」(学外実習)を含む本課程の検討にとって大切な資料となる。また受講生は別に「博物館実習Ⅱで学んだこと」というテーマのレポート要旨も執筆・提出して、本年報(「2008年度博物館実習Ⅱレポートから」)に掲載しているので、参照されたい。

最後に、本年もご多忙にもかかわらず、本学の実習生を受け入れていただき、ご指導を賜った各館の館長および学芸員、関係職員の皆様に厚くお礼を申し上げる。

### 博物館実習Ⅰ(学内実習)夏期フィールド

本年の博物館実習Ⅰの夏期フィールドは、例年通り①「古文書調査実習」、②「写真撮影実習」、③「博物館等施設見学」の各1日の3日間として実施した。その後、受講生は、夏期フィールド参加レポートを提出した。

〔夏期フィールド〕

○8月6日(水)午前10時~午後4時

「古文書調査整理実習」

場所: 本学博物館準備室兼実習室

指導: 平野寿則

○8月7日(木) 午前10時～午後4時

「写真撮影実習」

場所：本学博物館準備室兼実習室

指導：稲城正己・平野寿則・宮崎健司

○8月8日(金) 午前8時15分～午後7時40分

「博物館等施設見学」

引率：平野寿則・宮崎健司

①徳川美術館・名古屋市蓬左文庫

②安城市歴史博物館

本年度は初日に「古文書調査整理実習」、2日目に「写真撮影実習」、3日目に「博物館等施設見学」という日程となった。

1日目「古文書調査実習」では、昨年度に引き続き「酒田市大信寺文書」の調書作成と、目録作成のためのデータベース制作実習をおこなった。2日目は「写真撮影実習」である。前期授業での基礎知識の復習から、写真撮影の技術の初歩を講義したのち、一人ひとりが、その都度、カメラ・照明などをセッティングして、仏像のレプリカの写真撮影実習をおこなった。最終日3日目の「博物館等施設見学」では愛知県下の2館を訪問し、それぞれの概要等を懇切に説明いただき、施設や展観を見学した。通常では立ち入ることができない、バックヤードの見学は受講生にとって新鮮であったようである。

例年同様、本年の夏期フィールドも、多くの関係者の方々のご指導とご配慮をいただき、無事に3日間の実習を終了することができた。

### 博物館実習Ⅱ受講生の展示実習

本年度も、昨年度に引き続き、博物館実習Ⅱ受講生による実習生展を、大谷大学博物館の秋季企画展「重要文化財『春記』と紙背聖教—平安貴族の生活と信仰—」にあわせて開催した。

受講生を3班にわけ、各班で企画から展示、監視などもおこなうとともに、各班で展示解説を実施した。詳細は以下の通りであ

る。

〔実習生展〕

会期：9月9日(火)～27日(土)

会場：大谷大学博物館

内容：『春記』とその時代

I 小野宮流藤原氏—資房—

(C班：岡田 櫻本 中西 古川

和順 塩見 重見 塚本)

『春記』(謄写本・大谷大学図書館蔵)

「長元八年 関白左大臣家歌合」(影印版・大谷大学図書館蔵)

II 平安時代日記の諸相

(A班：石橋 北山 熊川 白鳥

中川 飯山 清澤)

「具注暦」(影印版・大谷大学図書館蔵)

『積日本記』(影印版・大谷大学図書館蔵)

『御堂関白記』(影印版・大谷大学図書館蔵)

『平記』(大谷大学図書館蔵)

『長秋記』(大谷大学図書館蔵)

『為親記』(大谷大学図書館蔵)

『紫式部日記』(大谷大学図書館蔵)

『源氏物語絵巻』(印刷版・大谷大学図書館蔵)

III 『春記』に見える京都

(B班：青木 小谷 佐川 園田

山口 山本 鷲尾)

『北野天神絵巻』(印刷版・大谷大学図書館蔵)

『京都坊目誌』(影印版・大谷大学図書館蔵)

『京童』(影印版・大谷大学図書館蔵)

『山城名勝誌』(影印版・大谷大学図書館蔵)

(学芸員 平野寿則)

## ■2008年度 博物館実習Ⅰ(学内実習) 授業テーマと内容

日程	授 業 テ ー マ	担 当 者	授 業 内 容
4/14 4/21	仏教資料取扱法 (序説)	宮崎健司	博物館実習Ⅰのねらいと展望(総論) 仏教文化財について
4/28 5/12	復習古文書	平野寿則	古文書読解実習
5/19 26	仏教遺物資料Ⅰ (仏教考古)	宮崎健司	仏教遺物資料(講義) 仏教遺物資料の取り扱い実習
6/2 9 16	仏教遺物資料Ⅱ (仏教民俗)	豊島修	仏教民俗・民俗資料(講義) 仏教民俗・民俗資料の取り扱い実習 仏教民俗・民俗資料の取り扱い実習
6/23 30 7/7	古文書 (近世・近代史料)	木場明志 草野顕之	近世・近代史料の種類(講義) 近世・近代史料の取り扱い実習 史料調査法
7/14	写真撮影実習	平野寿則 稲城正己	フィルムの種類・機能及び撮影上の注意事項 撮影実習
7/21	夏期フィールド事前学習	平野寿則 宮崎健司	夏期フィールドの事前学習
8/6 7 8	夏期フィールド	木場明志 草野顕之 平野寿則 宮崎健司 稲城正己	古文書調査実習見学 博物館資料写真撮影実習 博物館・美術館などの施設見学
9/18 22	真宗史料	三木彰円	真宗史料(講義) 真宗史料(聖典・絵画)の取り扱い実習
9/29 6	仏教文献資料Ⅰ (東洋仏典)	采 翠 晃	大蔵経の種類(講義) 漢訳大蔵経の取り扱い実習
10/20 27	仏教文献資料Ⅱ (漢籍中心)	浅見直一郎	漢籍・中国資料の概要 漢籍取り扱い実習
11/3 17	仏教文献資料Ⅲ (日本仏典)	沙加戸弘	日本書誌学の基本(講義) 仏教文献資料の取り扱い実習
11/24 12/1	博物館とマルチメディア	松川 節	博物館における情報処理技術(講義) デジタル映像撮影実習
12/8 15 22	博物館実習Ⅱ事前準備	宮崎健司 平野寿則	次年度「実習生展」事前学習
1/19	総括	平野寿則	本年度の反省と博物館実習Ⅱにむけて

## ■2008年度 博物館実習Ⅱ(学外実習)

実習館名(館長名)	実習期間	実習生名
大津市歴史博物館 (松浦俊和 館長)	8/19~23	中川 尚史 小谷 美樹 山口あゆみ
栗東歴史民俗博物館 (佐々木進 館長)	8/12~15	白鳥 芙美 山本友香里
彦根城博物館 (石丸正運 館長)	6/15・8/11 8/18・8/25 9/2・9/3	中西真由美
近江八幡市立資料館 (河内美代子 館長)	8/19~22	佐川 絵美 飯山 友紀 塩見 優樹 塚本 祥子
京都市歴史資料館 (井上満郎 館長)	8/26~29	古川 昌樹
霊山歴史館 (谷井昭雄 館長)	8/26~29	熊川 貴也 鷺尾真由美 和順かさね
大阪市立美術館 (篠雅廣 館長)	6/27~7/4	岡田 理恵 重見 梨江
大阪歴史博物館 (脇田修 館長)	9/1~4	櫻本 崇司
大阪城天守閣 (丸岡宏次 大阪市ゆとりとみどり振興局局長)	7/28~31	園田 祐美
池田市立歴史民俗資料館 (田中晋作 館長)	8/13~17	石橋 知子 北山 美咲
	8/20~24	青木 友里
安城市歴史博物館 (加藤善亮 館長)	8/19~8/22 8/26・27	清澤 トキ

## ■学芸員資格取得者(2009年3月18日付・第20期生)

〔大学院〕 石橋 知子  
 〔文学部〕 青木 友里・岡田 理恵・北山 美咲・熊川 貴也・佐川 絵美  
 櫻本 崇司・白鳥 芙美・園田 祐美・中川 尚史・中西真由美  
 古川 昌樹・鷺尾真由美・和順かさね・飯山 友紀・小谷 美樹  
 塩見 優樹・重見 梨江・山本友香里・塚本 祥子・山口あゆみ  
 〔科目等履修生〕 清澤 トキ

(22名)

## 2008年度博物館実習Ⅱ レポートから

私は8月13日から17日の5日間、池田市立歴史民俗資料館において学外実習をさせていただいた。この資料館では、池田市の歴史的特性は古墳時代、戦国時代、近世、近現代の四つに代表されるということで、展示内容もそれに沿った形となっている。また年五回の展示替えを行っており、利用者が比較的固定化しやすい、住宅地の中で図書館横に併設された資料館という立地条件などからも、リピーターを増やす努力が行われていた。さらにこの資料館では学芸員が少なく、収蔵庫の問題や資料館が設置された背景などを教えていただいた。実習では作業や他館への見学を通して、何を伝えるかを考えて展示すること、見学者を観察することの重要さといった、これまでにない視点を学ばせていただいた。この実習で学んだことを忘れず、今後に役立てていきたい。

大学院修士第1学年(仏教文化専攻)石橋知子

\* \* \*

私は、8月20日から24日までの5日間、池田市立歴史民俗資料館で実習させていただいた。この資料館は、池田市域に関する資料を網羅的に収集し、地域の人びとに何度も利用してもらおうと、他館よりも頻繁に展示の入れ替えを行なっている。

そこで手伝わさせていただいた作業の内容は、寄贈された切手の整理であり、7年も前から続けられているという。英語で書かれたカタログを片手に膨大な数の外国切手を整理するのは困難を極めたが、資料に触れることができ、貴重な経験であった。

また、3・4日目にはインスタントラーメン

ン発明記念館と落語みゅーじあむを見学する機会をいただき、資料館と他館を比較して、それぞれの館の特徴や目的、観覧者の反応の違いを見ることが出来たといえる。

以上、資料館で過ごした5日間は、短くも非常に充実した日々であった。

最後に、お忙しい中丁寧にご指導下さった池田市立歴史民俗資料館の方々には心より御礼申し上げます。

文学部第4学年(国史学コース)青木友里

\* \* \*

大阪市立美術館で実習を行った。6月末の6日間で、1日目と最終日は講義、他の4日は全関西美術展の搬入・展示・審査などのお手伝いをした。

1日目の館長の講義は、美術館と地域との関わり的重要性についてであった。美術館は何のためにあるか。誰のために、誰が支援するのか。誰のために学芸員が働くのかについて、館長が詳しく語った。誰のために美術館は運営しているのかということ、来館者のために、特に税金で運営されているので、大阪市民にどのように還元するかが重要であると語っていた。他に企画展と常設展についても話をしていた。企画展に目を奪われがちだが、重要なのは常設展である。いつきても同じ部屋の同じ壁に同じ作品が展示してあることが重要で、世代を超えて鑑賞できる。

今までは美術館や博物館の企画展に足を運んだが、常設展もじっくり見に行こうと思わせられた講義であった。これまでの考え方が変わった貴重な経験であった。

文学部第4学年(国史学コース)岡田理恵

\* \* \*

池田市立歴史民俗資料館（以下資料館）での実習は、外国切手の目録作成・インスタントラーメン発明記念館（以下記念館）及び落語みゅーじあむの見学である。実習において博物館の展示やその方法だけでなく、観覧者を見るという視点を学んだ。観覧者を見ることによりその館のターゲット・繁盛具合がわかるという。資料館は年4回の企画展・年1回の特別展を開催しており、ターゲットはリピーターという特徴がうかがえた。逆に記念館では常設展がメインで、テーマパーク的な要素を含んだ博物館という印象を受た。落語みゅーじあむは図書・AV資料の閲覧ができ、落語に興味があれば面白い博物館である。

今まで展示ばかり見ていたが、観覧者を見るという新たな視点を学んだことにより、視野が広がった。また、館長や学芸員の方から現場の声が聞けるとても良い機会であり、実習を受け入れて下さった池田市立歴史民俗資料館の方々に厚く御礼を申し上げたい。

文学部第4学年（国史学コース）北山美咲

\* \* \*

私は8月26日から29日までの4日間、幕末・明治維新に関することをテーマとして運営されている霊山歴史館で博物館実習に参加させていただいた。実習の内容は講義が主であり、学芸課長の木村幸比古氏をはじめとする様々な方々から、博物館のマーケティングや広報活動などの運営に関することや刀剣などの資料の取り扱いについての注意点など、様々なことを教授していただいた。また、知識的なことばかりではなくここでの実習は、歴史を学ぶことにどのような意義があるのかについて深く考えさせられる実習となり、その結果多くの方に歴史を学んでいただくためには博物館としてはどのような工夫を凝らすことが大切であるかについて非常に考えるよ

うになった。

この実習は博物館のみならず人生においても大切な姿勢を学ぶことができたと思うので、ここでの経験を今後も生かせるようにしていきたい。

文学部第4学年（国史学コース）熊川貴也

\* \* \*

近江八幡市立資料館での実習は、博物館の抱えた問題について、身をもって体験し学習させて頂いた、貴重な体験となった。地域に密着した博物館の実態を、梱包・返却の作業を通して学んだプログラム、実際に資料館で行われた展示に即して地域探査を追ったプログラムは、非常に濃密な日程であったと考えている。学芸員として勤める際に問われる、博物館展示に至るまで持つべき姿勢や資料を見る視座等について、様々な要点を教えて頂いた。その上で、そこにもう一つ展示に自分なりの個性を加える等、大学の勉強だけでは知る事の出来ない、踏み込んだ知識を教わる事が出来た。

また、博物館学芸員資格の過程で学んだ知識を最大限に活用する、博物館実習の枠だけに捉われない先生方の広い視野の断片をも教わる事が出来たと私は考えている。様々な知識を学ばせて頂いた事に感謝すると共に、今後には生かしていきたいと考える。

文学部第4学年（国史学コース）佐川絵美

\* \* \*

9月1日から4日までの4日間、大阪歴史博物館において実習に参加させていただいた。様々な学芸員として必要な知識や技術を学ぶことができた。

とりわけ2日目の実習において、大阪歴史博物館で1日まで行われていた特別展「大阪府・市指定文化財展」において、展示されていた仏像を学芸員の方と運送業者の美術輸送スタッフの方々が実際に撤収する作業を見学

させていただき、資料梱包の技術や、宗派によっては仏像を借入れ、貸出する際に仏像の「魂抜き」「魂入れ」といった儀式をする必要があることや、梱包の際には顔から隠し、展示をするときには顔を最後に出すという仏像を扱う上での基本的な技術や心構えを学ぶことができた。

この実習では、このように多くの貴重な体験をさせていただいた、大阪歴史博物館の学芸員や講師の皆様へ感謝申し上げたい。

文学部第4学年(国史学コース) 櫻本崇司

\* \* \*

8月中旬の4日間、栗東歴史民俗博物館で実習をさせて頂いた。

実習では、館長のお話や館内見学からはじまり、古文書と絵画・美術工芸品の整理や取り扱い方、調査方法を学んだ。最も印象に残っているものは、仏像の調査と写真撮影である。調査では、仏像の法量や構造、銘文の有無などを見ていき、撮影ではその様子を見学した。この作業に関わる学芸員の方の真剣さや丁寧さ、十分な時間をかけて根気よく地道に作業をしている姿を見て学芸員とはこうあるべきなのか、と非常に考えさせられた。館長からは学芸員に必要なものは、好奇心や幅広い知識、専門的な知識、コミュニケーション能力だというお言葉を頂き、この4日間の作業の中で学芸員の方の姿を見て、常にその言葉を実感した。この実習では学芸員の資質について深く考える事が出来、非常に貴重な体験となった。

最後に実習でお世話になった方々に深く感謝し、お礼を申し上げたい。

文学部第4学年(東洋史学コース) 白鳥美美

\* \* \*

私は7月28日から31日までの4日間、大阪城天守閣にて学外実習を行った。実習内容は初日の大阪城や天守閣の概要の講義・天守閣

内部の見学に始まり、2日目と3日目に有形文化財や歴史資料の取扱・展示解説文の作成、最終日に大阪城の史跡見学等多様な事を教授、体験させて頂いた。

特に、最終日の大阪城史跡見学の際に所々に立てられていた解説板の事が印象強く残った。例えば、「本丸」の英訳を「Castle」とせず「Hommaru」とし、「大坂冬の陣」と「夏の陣」の英文翻訳の区別(前者は「戦闘」、後者は「戦争」の単語をあてる)を図る等、外国人観光客にもきちんと配慮されている。誤解を与えないようにと利用者(対象者)の事を真に考えているのだと感心を覚えた。

この他、展示物に対する個々の視点の違い、文化財の扱い方や所蔵者に対する心得等、様々な事を学んだ。実習中、お世話になった方々には深く御礼申し上げたい。

文学部第4学年(国史学コース) 園田祐美

\* \* \*

天津市歴史博物館にて、8月19日から23日の5日間、実習をさせて頂いた。実習では大津の各寺院から集められた鬼瓦の調査・洗浄や、掛軸の取り扱い方、収蔵品の浮世絵を使った展示作業など学芸員業務の一端を体験し、貴重な資料に触れることができた。また講義においては、燻蒸方法の変遷、行われている普及活動、博物館の現状のことを聴き、改めて文化財の必要性や学芸員という仕事の存在意義について考えさせられた。この実習では、学芸員にとって大切なのは人と人のつながりであるということ教わった。資料の貸し借りや、地道な研究においても、人との協力関係なしには、成し得ないことであり、円滑に作業を進めるためにも必要なことであった。実習で初めて会ったもの同士が、展示作業などを通して、新しい人間関係を築くことができたと思う。

この実習で得た知識、経験、人のつながりは決して無駄にしないように今後活用して

いきたい。

文学部第4学年(日本仏教史学コース)中川尚史

\* \* \*

私は、8月中旬から9月上旬にかけて彦根城博物館で実習をさせて頂いた。彦根城博物館は国の特別史跡である彦根城の一角に建てられており、その外観は彦根城の表御殿を模した造りとなっている。また、その収蔵品も彦根藩主であった井伊家伝来のものが多いということだった。このような点からやや変わった形の展示室、年末以外休館日なしなどの特徴があるそうである。今回の実習では、9月に行われる『人権学習シリーズ 江戸時代の医療』の看板のデザインと作成、さらに展示替え作業の見学とその手伝いをさせて頂いた。先述の通り、彦根城博物館は年末以外休館しないので、一部の展示室のみを締め切って行う展示替えという貴重な体験をすることが出来た。その他にも様々な事を学んだが、特に感じたのがコミュニケーションの大切さである。コミュニケーションが上手いかなければ、安全に作業を行うことが出来ない。

今回体験したことを今後に生かしてゆきたいと思う。

文学部第4学年(日本仏教史学コース)中西真由美

\* \* \*

8月26日から29日までの4日間、京都市歴史資料館で実習をさせて頂いた。実習では主に古文書調査・整理の仕方を一通り学んだ。この中で、いきなり調書を取っていくのではなく、まず古文書を時代・内容別に分類し、最後に調書を取っていくというように、正式な手順を教わった。最初は手間が懸る方法だなと感じていたが、作業を進めていくうちにミスが減らせることを実感した。調査中の文書を入れた箱を収納するために行った収蔵庫の様式替えでは、箱が棚からはみ出して通路にも箱が積まれており、スペースを確保

するのに苦労した。この他にもさまざまな体験をさせて頂き、学芸員にはきめ細やかさや器用さも必要であることを感じた。私は当初から古文書調査・整理をすることを希望していたので、それを4日間体験できたことは非常に喜ばしいことであった。

実習中ご指導いただいた方々に深く感謝したい。

文学部第4学年(国史学コース)古川昌樹

\* \* \*

私は8月26日から29日までの4日間、幕末・明治維新に関する展示を行っている霊山歴史館で実習させて頂いた。実習内容は博物館運営に必要な広報、会計、マーケティングなどについての講義が中心であった。資料の取り扱いでは刀剣の手入れを行い、触れることで、本物が持つ魅力やモノに触れることの喜びを実感した。また、実際にモノに触れた感触は一生忘れないという考えからハンズオンを意識した展示を行っている理由が理解できた。自館が持つ強みを最大限に発揮し、工夫を重ね、外に向けてアピールすることの重要性を学ぶことができた。そして佐藤事務局長の「館の使命とは何か、何のために存在しているのかを常に考えて行動することが大切」という言葉が印象的で、この意識が館を支えていくのだと感じた。

4日間、霊山歴史館の皆様には大変お世話となり、博物館について再度深く考える機会を与えてくださったことに深く感謝し、御礼を申し上げたい。

文学部第4学年(日本仏教史学コース)鷲尾真由美

\* \* \*

8月も終わる頃、私は京都東山にある霊山歴史館で学外実習をさせて頂いた。大谷大学以外の大学からも多くの学生が実習に参加し、短い期間ではあったが共に学芸員資格取得を目指し、様々なことを学んだ。

実習は講義を中心に進められたが、二日目には資料の梱包の実習があり、実際に簡単な梱包作業を実習生一人一人が行った。他に刀剣の取り扱いについて学びもした。講義では特に、木村学芸課長から博物館学についての話はもちろん、学芸課長自らの体験談なども多くお話ししていただいた。大学の講義だけでは聞くことができない、日々学芸員として働く方の話を多く聞くことができ、そこから様々なことを学ぶと同時に、これからの博物館とはどうあるべきかと考えさせられた。

学外実習でしか手に入れることのできない、貴重な経験と知識を多く得ることができ、実習中指導して下さった木村学芸課長の他、歴史館の方には本当に感謝したい。

文学部第4学年(日本仏教史学コース)和順かさね

\* \* \*

8月19日から22日までの4日間、近江八幡市立資料館で実習をさせていただいた。実習は、近江八幡市の歴史などを学ぶためのフィールドワークを中心に行った。このフィールドワークを通して感じたことは、学芸員にはひたすら文書を読む力だけ備わっていても務まらないということである。何にでも興味を持つ好奇心の強さや様々な場所に自らの足を向け調査する体力が必要であるということを実感した。また、企画展を撤収し、お借りしていた展示品を個人のお宅へ返却するという貴重な体験をさせていただいた。この体験で、資料を扱う際には実際に資料を手に取り、その性質を感覚で判断して梱包などをしなければならぬということ、またコミュニケーション能力によって地域の方々との信頼を築き、協力していただくことでよりよい博物館にしていくことの大切さを学んだ。

最後に、大変有意義な時間を過ごさせていただいたことに深く感謝したい。

文学部第4学年(国文学コース)飯山友紀

\* \* \*

8月19日から23日までの5日間、私は大津市歴史博物館で実習をさせていただいた。学芸員の方々のお話を聞き、多くの資料に触れ、この5日間は本当に貴重な経験となった。

実習内容は、講義、掛軸・浮世絵・瓦の取り扱い、展示で、多岐にわたった。現場で行われる全てのことが新鮮で興味深く、できるだけ吸収しようとしたからか、何事も楽しんで学ぶことができた。

その中でも印象深かったのは展示実習である。展示作品の調書を取り、キャプションを作った。キャプション作りでは、着眼点が各々異なり、個性的なものが出来上がった。また、どう展示すれば観覧者が見やすいかについて、真剣に話し合った。

この実習で感じたことは、学芸員の仕事は幅広いということである。専門的な仕事はもちろん、事務的な仕事・教育的な仕事・接客など、仕事の内容は多くの分野を網羅している。今回の実習は、自分に足りないものを見極めるのに最適の場になった。

文学部第4学年(国文学コース)小谷美樹

\* \* \*

私は8月19日から22日までの4日間、近江八幡市立資料館で実習させていただいた。実習では、企画展で展示されていた資料の片付け、梱包を行い、写真や軍服など様々な種類の資料の扱い方を学ぶことができた。その日の午後には、個人のお宅へ資料の返却に伺い、地域の方々に触れ合うこともできた。また、フィールドワークを行い、近江八幡の歴史ある町並みを見て回った。長時間歩くのは結構大変だったが、地域密着型の博物館では学芸員が自分の足で地道に調査していくのがとても大切なことだと感じた。実習は短い期間だったが、一日一日が内容の濃い大変充実

した4日間であった。

初日に館長さんがおっしゃった「荷物にならない荷物(知識)を持って行ってください」という言葉通り、多くの知識をこの実習で得ることができたと思う。

文学部第4学年(国文学コース)塩見優樹

\* \* \*

私は、6月27日から7月4日までの中の6日間、大阪市立美術館で博物館実習をさせていただいた。実習では、第五十四回全関西美術展の搬入や、審査、陳列などに関わらせていただいた。その他にも、館内見学や講義、工芸・書画の取扱い方などについても勉強させていただいた。

私は、講義の際に出されたミュージアムは「誰のために存在するのか」という問いについて考えながら実習に臨んだ。私が実習を終えて感じたのは、来館者や市民の方々のための美術館作りがされているということであった。実際に、学芸員の方々は市民の方々の声を大切に、来館者が何を求めているのかという視点を持って展示などを考えていたように思う。

学芸員には想像していたよりも多くのことが求められていた。また、予算などに考慮した館の運営がされている面でも現場の厳しさというものを実感できたと思う。今回学んだ多くのことや気づきをこれからの生かしていきたい。

文学部第4学年(国文学コース)重見梨江

\* \* \*

私は8月12日から15日までの4日間、栗東歴史民俗博物館で実習をさせていただいた。実習では館長のお話や館内見学、目録作りや古文書の調査作業などを行った。「大宝神社文書」の古文書実習では、古文書にラベルを貼るという普段経験できないような実習をさせてもらった。古文書の種類によってラベル

の貼る位置は決まっていた。決まっているなら作業はスムーズに進むだろうと思っていたが、実際はラベルを貼る位置が分からないもののほうが多かった。実際に資料に触れる作業が多かったので、常に緊張感を持って作業することができた。ラベルを貼るという作業は地道な作業ではあったが、こういった地道な作業が資料を残していくためには一番必要なことなのだと今回の実習で学んだ。

実際に博物館で働いておられる学芸員の方の仕事に対する誇りを肌で感じることができ、とても充実した4日間であった。

文学部第4学年(国文学コース)山本友香里

\* \* \*

私は8月19日から22日までの4日間、近江八幡市立資料館で実習させていただいた。実習では企画展の撤収作業にあたり、軍服や写真などを薄葉紙や真綿を使って梱包し、それらを個人宅へ返却するという体験をさせていただいた。資料の貸し借りや返却では、万が一のことがないように十分な注意と確実な事務手続きを要する。他館や個人と館の学芸員との強い信頼の上で展示がなされることを実感した。また、資料を提供してくださる地域住民の方々、あるいは伝統的建造物群保存地区の景観保存に携わるの方々など、町の観光事業の活性化や研究・保存が地域ぐるみで行われていることを知った。その他、実習では近江八幡の町を散策する時間を豊富に設けてくださり、ヴォーリズ建築や寺社、古道、古い町家などを見て回った。

常に好奇心を持つことと、体験することの大切さを、実習を通して学ぶことが出来た。濃厚で貴重な4日間の実習経験は、今後に十分活かしていきたいと思う。

文学部第4学年(国際文化学分野)塚本祥子

\* \* \*

私は8月19日から23日までの5日間、大津

市歴史博物館での博物館実習に参加させていただいた。実習では、掛け軸や浮世絵の取り扱い法、かわらの洗浄、かわらや浮世絵の調査、展示実習を行った。また博物館ではいかに文化財を護っているか、人を呼ぶためにはどうすれば良いか、博物館に求められていることなどの講義を受けた。展示実習では、実際に浮世絵の調査を行い、自分たちでキャプションを作り展示した。実習中は他の実習生と協力して行うことが多く、協力し合うことの大切さを改めて感じた。この実習で、博物館や学芸員の現状や文化財が現在おかれている状況や他とコミュニケーションを取ることの大切さを学べた。実習期間中は学芸員の方の話も多く聞くことができ、学芸員のやりがいや大変さなどを知ることができた。

今まですることのできなかつた貴重な体験をさせていただいたことを感謝したい。

文学部第4学年(人文情報コース)山口あゆみ

\* \* \*

8月下旬の6日間、愛知県の安城市歴史博物館で実習をさせていただいた。内容は講義・資料取扱実習(掛軸・出土品・文書)・展示室の展示替え・展示室の解説等で、かなり中身が濃く毎日が緊張の連続であったが、とても有意義だった。

特に一番苦労したのは、解説実習だった。同じコーナーを二回解説するのだ。私の担当した「三河一向一揆」コーナーには掛軸一点と絵図一点しかなく、一回目の解説では5分間一向一揆の概要説明に終始してしまった。それで全力のつもりだったが、学芸員さんから「私は一つの掛軸で5分は話すよ」とアドバイスを頂き、二回目では絵図で5分間解説する事ができた。いかに一つの展示物に対し奥深い知識が必要とされるか痛感した。

学芸員の方々には、資格を得るだけの実習生が殆どなのにも関わらず熱心にご指導下さり、「一人でも多く博物館の理解者になって

欲しい」という気持ちで実習生を受け入れている」との言葉が印象的だった。

科目等履修生 清澤トキ

\* \* \*